

かい
海

よう
陽



4 72
月号

公民館報

海陽町教育委員会
2018年4月1日発行

平成29年度 海陽町公民館大会

主催 海陽町公民館 後援 海陽町教育委員会・海陽町



3月4日 公民館交流芸能大会(海南太鼓)



平成29年度 海陽町公民館大会

テーマ：「新たな絆を育む心ときめく公民館」



仙波 英徳氏



三浦 良氏

3月4日（日）
海南文化館にて
「新たな絆を育む
心ときめく公民館」
を大会テーマに町
内の公民館関係者
をはじめ、多くの
方が参加しました。
辻公民館長、前田
町長の挨拶の後、
海陽町社会教育指

導員の三浦良氏が「子どもを育む地域に根ざした体験活動」について、本町で実施している土曜学習の取り組みを通して報告しました。

「土曜学習」とは、教育委員会など学校以外の機関が主体となり希望者に対して、学習活動を行います。昨年実施した5つの土曜学習の中から文化財巡り、小中高英語交流活動（イングリッシュ・デイ・キャンプ）、びっくり箱の事業とコラボして実施した「英語で防災ウォークラリー&英語カフェ」等を紹介しました。

その後、愛媛県松山市久米公民館運営審議会委員長の仙波英徳氏を講師に招き「子どもをまん中に公民館と学校でまちづくり」と題してご講演いただきました。

久米公民館の基本方針である、①まちをよく知ってもらう、②安心安全なまちづくり、③人と人が出会うきっかけづくり、この3つの基本方針から様々な活動を行っており、子どもをまん中に据えた地域づくりの実践を発表していただきました。

地元の公民館・学校・NPOらの協働により実施している里山作りや地域の安全マップ作りなど、学校を巻き込み子ども達も参画するまちづくりを紹介いただき、改めて子ども達からお年



寄りまで多様な世代が地域や公民館に関わりを持てる地域づくりの大切さを考えさせられるすばらしい内容の講演でした。今後の海陽町の公民館活動にも活かしていければと思います。

午後から公民館交流芸能大会が行われ、地域の皆さんによる各種芸能が披露されました。ロビーには公民館の活動写真や、人権啓発パネル・海陽町内小学校人権啓発ポスターが展示され、多くの方が足を止めて掲示物に見入っていました。

パネル展



交流 芸能大会



詩吟・詩舞 (海部)



民踊 (浅川)



キッズダンス



歌唱・踊り (川東)



民踊 (実喰)



レクダンス (実喰)



民踊 (川東)



踊り (川東)



民踊 (海部)



童謡 (穴喰)



フラダンス (海部)



人権啓発コンサート

～津軽三味線の音色を歴史と共に～

2月12日、海南文化村において、女性津軽三味線ユニット「来世楽(ラセラ)」を迎えて、人権啓発コンサートを開催いたしました。満員になるほどたくさんご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。迫力ある演奏や歌に魅了された方が多かったのではないかと思います。あのような迫力ある津軽三味線を生み出した歴史をたどると、人権について考えさせられる要素がたくさん浮かび上がってきます。

津軽三味線は明治・大正・昭和初期にかけて、今の青森県で誕生します。昔、「ボサマ」と呼ばれていた盲目の門付け芸人が津軽三味線を生み出したのです。

では「ボサマ(坊様)」とはなんのでしょうか？ その当時、盲目の人たちは生きていくためには、あん摩になるか芸人になるしかありませんでした。

そんな芸人たちを津軽では「ボサマ」と呼び差別していました。「ボサマ」は家々を回り、門口で三味線を弾き、その見返りとしてわずかばかりのお金や米をもらい生活の糧にしていました。彼らは差別を受けながらも、一生懸命芸を磨き精進したのです。厳しい差別を受けながらも津軽三味線を確立した一人に「高橋竹山」がいます。

彼は『わが人生論』のなかで、このようなことを言っています。

「ふりかえてみると。わたしは子どもの時分からメグ(盲)、メグとばかにされいじめられた。門付けして歩けば、ボサマ、ホイド(乞食)と言われ、いやしめられた。世間を歩きながら私は思ったものだ。「オレをバカにするお前らは、自分独りでくらさねばならなくなったとき、門付けでもなんでもやって生きていけるか！」と。財力や権力をかさに着て威張る人や弱いものいじめをする人は、強いからそうするのではない。その反対だ。自分が弱いものだから、自分より弱いものをいじめる。だから、自分より強いものにはペコペコする。本当に強い人は弱い者をいたわるものだ。私が困っているときに、はげまし助けてくれたのは、私同様に貧しい人、いやしめられている人、しかし心の優しい人たちだった。そうした人たちこそホントの人間と言えないだろうか。世間という学校からわたしは、人間を見る目をもらった、と思っている。」

この言葉は、人間にとって大切なものは何かということを明確に示しています。厳しい生活環境の中から津軽三味線という音楽を通して、竹山がつかみ取ってきた「人生の真理」そのものように思えます。

今回のコンサートでは、一人ひとり、それぞれ様々な受け止め方をしていただけたのではないのでしょうか。これからの生活において、何らかのヒントや糧になれば幸いです。ありがとうございました。

—来場された方の感想(抜粋)—

◇たくさんの方が一つの場所に集まって、海陽に人権の花がいっぱい咲いたように感じました。企画ありがとうございました。

◇初めての津軽三味線、とても感動しました。また機会があれば来てほしいです。

◇とても楽しくおもしろかったです。美しい三味線を聞かせていただき、いつまでも聞いていたかったです。いろんな勉強になりました。いつまでもお元気でみんなを元気にしてあげてください。

◇高齢になり淋しい日を過ごすことがありますが、今日三味線の音色で心の中から明るく楽しくなりました。明日から楽しく生きていきます。

またこのような機会を作ってください。



「人権力」ですみよい町に！ クヌツセン機関長と博愛の精神

社会教育指導員 佐藤和久



クヌツセン碑(浅川漁村センター)

「クヌツセン機関長」といえば、海陽町民なら一度は耳にしたことがある名前ではないかと思えます。昭和32年、和歌山県日ノ御崎沖を航海していた浅川の機帆船「高砂丸」が火災にあいます。そこへ通りかかったデンマークの貨物船エレン・マースク号の乗組員クヌツセン機関長は、荒れた海の中へ飛び込み、高砂丸の

今もずっと語り継がれています。クヌツセン機関長や船員たちが起こしたこのような勇氣ある行動は、偶然ではないかと思はれていました。しかし、よく調べてみると偶然ではなく必然ではないかと確信するようになりました。それはなぜか。彼が育ったデンマークの風土や環境を見れば

乗組員を救助しようとした。残念ながら、願いむなく機帆船の乗組員もクヌツセン機関長も命を落としてしまいます。しかしながら、クヌツセン機関長と船員たちが危険を顧みず勇敢に人命を救助しようとした話は

その理由がよくわかります。

クヌツセン機関長は1917年デンマーク、ユトランド半島北端のフレデリックスハウンという小さな町に生まれました。この地方は、大変風が強く潮流が複雑という自然環境のため、昔から「船の墓場」と言われるほど海難事故が多発するところでした。そのため、地域の人たちは救難隊をつくり、人命救助に当たっていました。この地域の人たちにとって人の命を救うことは大変名譽なことであり、助けるべき人が目の前にいれば、必ず助けに行くという態度が小さい時から自然に身についていたと考えられます。

もう一つは、デンマークの民主主義思想が教育の中でしっかりと培われていたのではないかとこのことです。デンマークの民主主義は基本的には三つのことが柱になっています。

クヌツセン機関長が生きた時代は今から60年も前です。そのころからデンマークではすでに民主主義を充実させようという機運が高まっていました。アンデルセンの童話に見られる、「弱者の立場で社会をとらえる」という考え方も広がってきた時期です。つまり、市民の中に「一人ひとりをかけがえのない存在として尊重する」という考え方が浸透していったのではないかとこのことです。

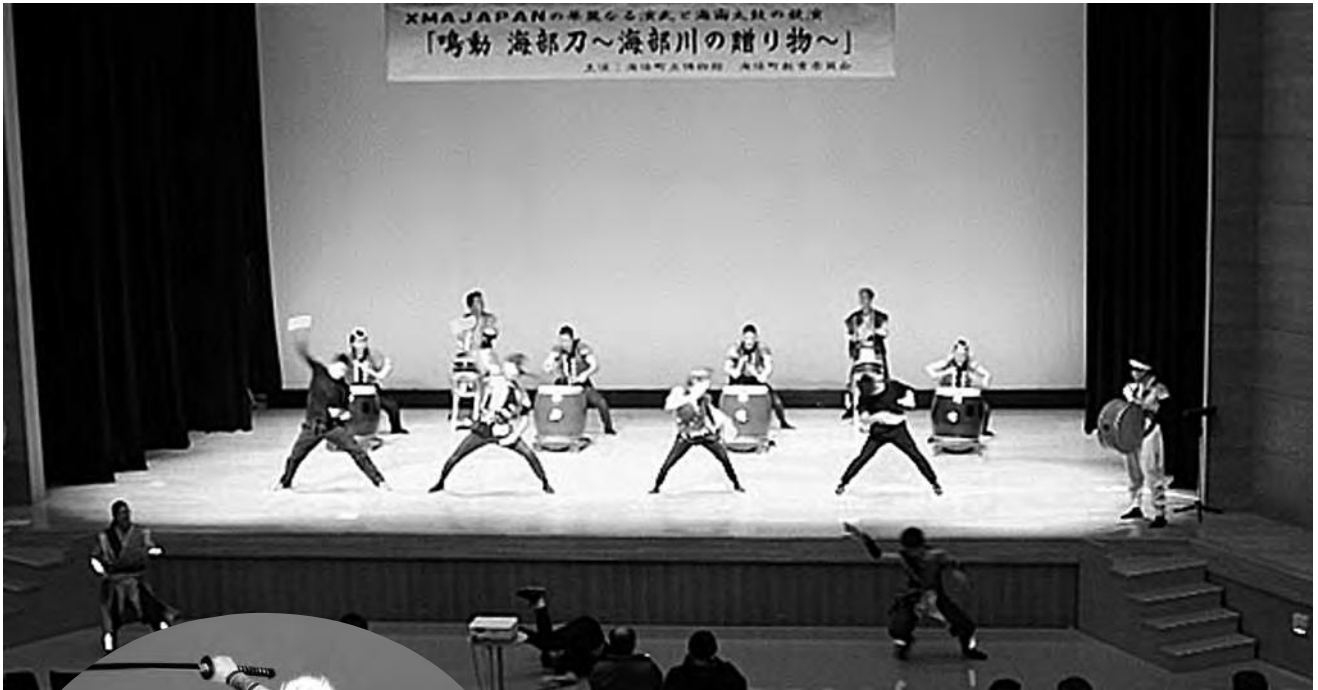
このようなことを考えると、クヌツセン機関長やエレン・マースク号の船員がとった行動は、「人種・宗教・風習などの違いをこえて、人間愛に基づいて全人類が平等に相愛協力すべきである」という博愛の精神はもちろんのこと地域のつながりや民主主義教育の大切さをも私たちに教えてくれているように思えます。

民主主義の基本

- 一人ひとりを平等でかけがえのない存在として尊重
- 個人の自由を最大限に認める
- その人の生き方、生活の仕方をできる限り大切に

「鳴動 海部刀～海部川の贈り物～」出演者インタビュー

総集編



杉口 秀樹さん

平成29年12月23日(土・祝)に、特別イベント「鳴動 海部刀～海部川の贈り物～」が海南文化館ホールにて開催されました。

杉口秀樹さん率いるXMA-JAPANと、地元の海南太鼓(海部高校郷土芸能部・OG、中学生の合同チーム)、LUMBERS with Hinata(海陽町男子高校生によるヲタ芸とブレイクダンスのダンスグループ)が、迫力満点の演技で観客席を沸かせました。

また、杉口さんと海陽町男子高校生とのトークや、「♪太鼓とXMAで遊ぼう♪」に観客も一緒に参加して楽しみ、家族的な一体感に包まれた地域活性化イベントになったのではないかと思います。

結果的に、異なる世代の、異なる価値観の人々が、お互いに興味を持ち合っつながることのできる貴重な機会になったのではないかと感じました。 [海陽町地域おこし協力隊 島田佳香]

以下、開催前に海南太鼓メンバーの皆さんに **ロングインタビュー** をしました。その「総集編」をお送りいたします。

①海部高校 郷土芸能部OG



OGの皆さんは、練習の時から本当に楽しそうにのびのびと叩いていたのが印象的でした。インタビューは、海南太鼓OGという側面からさらに踏み込んだものになったのではないかと思います。

左から やまもと 山本 りさ 里紗さん みしま 美島 ゆい 結衣さん おかざき 岡崎 あや 彩さん みうら 三浦 まな 真奈さん

島田「郷土芸能部の10人の中でどれぐらいが地元に戻ってきていますか？」

岡崎「6人です」

島田「皆さん、都会でいったん進学したわけじゃないですか？そのまま都会で住みたい、就職したいとは思わなかったんですか？」

美島「どっちもどっちのよさがあると思うので。私たちはこっちで住むことを選んだっただけで、都会が合わなかったというわけではない」

②海部高校 郷土芸能部



男女も学年も隔たりなく、家族のような良い雰囲気の皆さんです。集団で和太鼓を演奏する時、お互いをよく知っていて信頼関係があることはとても大切なことなのだそうです。今回の「鳴動 海部刀」において、チーム「海南太鼓」のリーダーとして、立派に皆を引っ張ってくれました。

北川「郷土芸能部でも今回のような試み（「鳴動 海部刀」を皆で創り上げていくこと）をまだしたことがありませんでした。この経験はすごいなあって思ってます」



池田「新入生歓迎会で郷土芸能部の先輩方が演奏しているのを見て、心を打たれて、見学に行ってみようかなと思って見に行ったら、これは入らなあかん空気やぞってなって…流れのままに入りました」

中野「（杉口さんのことを）金髪の怖い人がきたなあって、初めはそう思っていたんですけど、実際は気さくな人でした」

戎田「僕はキャプテンでこの郷土芸能部を背負っていく立場で、3年生から引き継いでいるわけなので、自分もつなぎ役として頑張ろうと思います」

清水「今の郷土芸能部の5人が何とかなるやろうって楽観的すぎる性格なので、そんなところを直しつつ、私たちはこんなに楽しいんよっていうのをアピールしたいです」

男子左から

増田 蓮君 (1年) 戎田 勇樹君 (2年) 中野 湧基君 (1年)

女子左から

池田 冬那さん (1年) 北川 杏璃さん (3年) 清水 沙奈さん (1年)

③LUMBERS with Hinata

今回の「鳴動 海部刀」のシークレットゲストです。当日もブレイクダンスやヲタ芸ダンスをあまり観たことがないと思われる高齢者の方が、大変感動しながら大きな拍手を贈っているのが印象的でした。当イベントが彼らの最後の花道と言っていました。またどこかで私たちを楽しませてほしいものです。

増田「ヲタ芸ダンスって普段使わない筋肉をむっちゃ使うんですよ。だから次の日絶対に筋肉痛になるんですよ。2、3時間練習した次の日学校でもつらいです」

島田「確かにヲタ芸ダンスは歳をとった人が踊ったら危険だなーってぐらいハードな動きをしますよね」

増田「19までやってたら死んでるな。ヲタ芸ダンスは15まで」

全員「(笑)」

山本「一度学校でダンスの同好会をつくろうと頑張ったんですが、無理だったんで、部活動はせずに1人で3年間活動してきました。人とたくさん出会えたことがダンスをやっていて一番



よかったことだなあとと思います。県外のイベントとか、大阪の人が徳島に来てくれたりして、日本であった(ブレイクダンスの)世界大会を観に行ったりして、ダンスを続けていくことで広い世界が見られるということがわかりました。自分の世界が広がった気がします」

前列左から ^{やまだ}山田 ^{ゆづき}裕月君(海高1年) ^{やまもと ひなた}山本陽南太君(同3年) ^{さいが わへい}雑賀 和平君(同1年)
後列左から ^{なかの}中野 ^{ゆうき}湧基君(海高1年) ^{ますだ れん}増田 蓮君(同1年) ^{かめい ゆうた}亀井 優汰君(富西高1年) ^{こんどう はやと}近藤 勇人君(海高1年)

④海南太鼓 中学生



とても仲良しの同級生4人組です。高校生やOGさんに比べて、恥ずかしがっているのか、言葉少なめで少し苦戦しました。

- 島田「太鼓をする上で、声は重要なんですか？」
- 山戸「華やかになるし」
- 川畑「太鼓だけだと退屈するというか、掛け声があった方がすごいなって感じが出る」
- 山戸「地打ちというダンダンって同じリズムを叩く人がいて、それが曲の基礎になるんですが、その基礎のリズムを叩く人

と、メロディーのリズムを叩く人がそれぞれ違う方向にいつてしまっていて、うまく調子を合わせられないと、皆が曲を演奏できなくなるので、仲が良い子らどうしてやったら、ちゃんと一体感がある太鼓になるんです」

左から ^{かなおか とよ}叶岡 音誉さん(海陽中2年) ^{いのうえ まや}井上 真彩さん(同2年) ^{かわはた}川畑 れなさん(同2年) ^{やまと あかね}山戸亜歌音さん(同2年)

優勝おめでとらございます！

遠藤旗争奪 第34回新野少年剣道錬成大会



平成29年12月23日(日)阿南市新野中学校体育館で行われた「遠藤旗争奪第34回新野少年剣道錬成大会」女子団体戦において、「海部川剣道教室女子チーム」が見事初優勝を成し遂げました。

吉田 瑞希 ^{うらたけ}浦上 紗笑 ^{あべ}田建 飛奈 (海南小6年)



生涯学習講座



クリスマスケーキ作り!

◆毎年大人気のクリスマスケーキ作り♪
今年もたくさんの参加があり、和気あいあいとケーキを作りました。



しめ縄作り!

◆お正月用の飾りとして、しめ縄を手作りしてみました。みなさん藁を縄でなう作業が難しく苦戦していましたが、なんとか仕上がりました。飾り付けも華やかに施し、和モダンなしめ縄が出来上がりました。いいお正月が迎えられたことと思います。



第12回海陽町新春ふれあい駅伝

1月21日(日) 於：蛇王運動公園

今年は天候も良く、59チーム（「一部」小学生男子11チーム、小学生女子7チーム、中高生女子6チーム、オープン1チーム、「二部」中高生男子14チーム、一般18チーム、オープン2チーム）が参加して開催されました。

1区・5区は2.5km、2区・4区は2km、3区1.5kmでそれぞれ日頃の練習の成果を競い合いました。選手の皆さん、お世話をして下さったスタッフの皆さん、お疲れ様でした。



今年も仮装ランナーが駅伝を盛り上げてくれました。

【団体表彰】

【1部】

○ 小学生男子の部

	チーム名	タイム
第1位	F u n F C A	43.51
第2位	海 南 ク ラ ブ A	43.53
第3位	相 生 ク ラ ブ A	45.05

○ 中高生女子の部

	チーム名	タイム
第1位	海陽中女子バスケットボール部A	44.52
第2位	日和佐中学校駅伝部	44.58
第3位	宍喰中学校バスケット部	46.03

○ 小学生女子の部

	チーム名	タイム
第1位	チームむぎっ子5人組	48.56
第2位	海 南 バ ン ビ ー ズ	49.46
第3位	宍 喰 杉 の 子	50.18



【2部】

○ 中高生男子の部

	チーム名	タイム
第1位	のり坂5～アゴ川ーズ～	35.16
第2位	海部高校陸上部	36.30
第3位	日和佐中学校駅伝部A	38.11

○ 一般の部

	チーム名	タイム
第1位	海陽陸上クラブ	38.04
第2位	由岐体協陸上部	40.27
第3位	大塚ワジキカロリーメイト (チョコ味)	41.03

【区間賞】

【1部】

○ 小学生男子の部

	チーム名	氏名	タイム
第1区	F u n F C A	築地航平	9.26
第2区	F u n F C A	青木准平	8.06
第3区	相生クラブA	山崎創那	6.03
第4区	海南クラブA	神野広翔	8.39
第5区	F u n F C A	坂本蒼樹	9.58

○ 小学生女子の部

	チーム名	氏名	タイム
第1区	チームむぎっ子5人組	竹本ひより	10.40
第2区	穴喰杉の子	村上友美	8.42
第3区	穴喰杉の子	白濱柚子	7.19
第4区	チームむぎっ子5人組	井上咲都美	9.02
第5区	海南バンビーズ	元木 葵	10.31

○ 中高生女子の部

	チーム名	氏名	タイム
第1区	日和佐中学校駅伝部	市村美奈	9.42
第2区	海陽中女子バスケットボール部A	山岡詩月	8.11
第3区	日和佐中学校駅伝部	川添晶菜	6.43
第4区	由岐中バボさん	川西真菜	8.55
第5区	由岐中バボさん	尾崎瑠音	9.37



【2部】

○ 一般の部

	チーム名	氏名	タイム
第1区	由岐体協陸上部	蒲生悠太	8.11
第2区	海陽陸上クラブ	山田和人	7.14
第3区	大塚ワジキ エクセル	国貞昭博	5.48
第4区	駆け学園	才力慎也	7.16
第5区	南阿波サンラインRCA	福田健治	8.39



○ 中高生男子の部

	チーム名	氏名	タイム
第1区	海部高校陸上部	近藤勇人	7.51
第2区	のり坂5～アゴ川～	小澤幸真	6.43
第3区	海部高校陸上部	木下緋色	5.18
第4区	のり坂5～アゴ川～	溝内将人	6.44
第5区	のり坂5～アゴ川～	由良快斗	8.31



穴喰俳句

二月例会より

街道をそれて凍港ありにけり 元木朱子
 左義長に放り込みたいのは自分 外山千佳
 おさな児のまあるい笑顔焚火する 山本球子
 大人になろうシャボン玉弾けたら 新井駿也
 山茶花の散るや日課の箒持ち 朝賀ます美
 小春日や影踏みする子元気な子 樽井みつ子
 七草の赤蕪あるを選びけり 新井久実
 決裁の印の横向く春の昼 長岡達江
 寒風や屋敷林持つ北陸路 川野佳代
 月蝕の過ぎたるあとを山の雪 間戸谷恵子
 仏壇に義母の好物雑煮餅 元木栄子
 手品師のピンクリボンの尽きて春 寺崎照代
 冬の夜の昔の映画見ていたり 梅田千恵子
 春の雪売地の札のやや汚れ 木下野生

海南俳句

水尾引きて船団の如鴨のゆく 田中たち子
 日の出待つ白い息してじつと待つ 新居利之
 少女らの大寒の足むき出しに 谷口洋根子
 椀蓋を開ければ春の匂い立つ 佐野政一
 月白く花なきバラの棘凍てる 吉田保則
 ジョン万の像立つ岬寒椿 廣瀬克子
 じいちゃんのどや顔見せて独楽まわし 平道はつ子
 ほうれん草洗う手と茎赤かりし 鍛冶崎郁夫
 遠山に雪向かって唄う早春賦 岳山祐弘
 霜柱ドレミドレミと遊びけり 津川須美江
 霜枯れや出会いしまなこ昼の鹿 北川花
 夜なべして妣の残せしコタツ掛け 谷律子
 みぞれ降るガラス戸越しに眺めおり 山本達平
 出征前父土のまじった雪兎 森口豊子
 大寒に生まれ握力42 武知陸子
 皆既月食明くるとともに二月来る 叶岡陽二
 松籟や島も色濃き大寒波 橋本幸子

会員募集
 俳句に関心のおありの方はお気軽にご連絡
 ください。
 事務局(橋本) 090-1514619064

海部ひまわり俳句

春近し草刈り機の刃買いに行く 津田一
 春の猫そ知らぬ顔で通り過ぎ 西本公明
 めぐりあうことの不思議さ冬星座 榊原礼子
 薬師坂潮風匂ふ春隣 南歌子
 孫むすめ授乳這い這い冬日向 松田嘉子
 水鳥の群れる向うは太平洋 元木美枝子
 汐風よき空のあり春の海 佐藤美代子
 久しぶり雨のソナタよ毛糸編む 穴戸道子
 永き日にわとりを追いかけている 岡育代
 春待てど一人で生きる重荷かな 川野照美
 冴え返る夜明けの窓の月白し 福田敦子
 牛小屋の牛亡くて哭く秋の風 佐藤薫子
 統一旗ヒョンチャン五輪雪解けか 穴戸保夫
 錫屋根に雨滴のソナタ春隣 関山無門

海南短歌会

娘とふたり寄り添いきたる歳月にペアの食器のいくつか増えぬ
細野綾子

冬陽さす雑木林に光りつつ静けさの中木の葉舞い散る
蛭子美恵子

夜の更けを上弦の月くつきりと遠く波の音しじまを潜る
大久保スエ子

ゆるやかに綻びてゆく紅梅を告げたき人のあらぬ立春
土谷公代

新春を寿ぎかわす盃に金の花びら舞う酒をつぐ
桑村未貴子

穴喰短歌会

残生を賭けて解読亡父宛の著名人らの数多の書簡
田井晴代

※田井さん生前最後の句

身をよぢり噂逃るる徒労などすまじ総身に潮風を受く
大黒千枝美

風立てば岩確のあはひに渦巻きてゆるく越えゆく春の潮は
石井町子

時季流る早さ止まれと思う日々梅の蕾に息吹きおぼゆる
桑野亀乃

サクサクと凍てし庭をふみしめて北風の中生くるたしかさ
舩谷恂子

美しくより美しく空に舞う平昌五輪夢に向いて
三野みよ子

現身の鼓動の波音聞くごとく闇夜の中にまなこひらけり
山崎千栄子

網代川柳一月句会より

高かった理想を年が値引きする
風呂谷いずみ

先々とあわてて急ぎ穴に落ち
福岡純山

一呼吸おけば会話も丸くなる
石垣小道

家族みな元気気楽に賀状読む
黒岩一平

夫婦にも賞味期限のある契り
井上可楽

子離れの出来ぬ白髪が増えてゆく
太田一洋



トピック

コウノトリ



写真提供：岡田 齊 氏

国の天然記念物であるコウノトリが鳴門で繁殖をしたことや、海陽町に飛来したことが話題に上がり、人々を和ませたことは記憶に新しいです。

コウノトリは「赤ん坊を運んでくる縁起のいい鳥」という言い伝えを誰もが一度は耳にしたことがあるでしょう。実は「赤ん坊を運んでくる縁起のいい鳥」はコウノトリではなく、コウノトリの近縁種でくちばしが赤いシュバシコウを指すと言われます。シュバシコウは好んで家屋に造巣することや、雌雄共同で造巣から子育てまで行うことからこのような言い伝えが北ヨーロッパで始まったと言われます。

4⁷²月号

公民館報

海陽町教育委員会
2018年4月1日発行